

世田谷区立代田小学校

校長 鈴木忍 様

世田谷区立代田小学校

学校関係者評価委員会

委員長 黒田 高史

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

令和 7 年度世田谷区立代田小学校関係者評価結果について下記のとおり報告します。

I. アンケート実施状況(期間:2025/11/7~11/20)

| 対象者 | 回答数 | 配布数 | R7 回答率(%) | R6 回答率(%) |
|------------|-----|-----|-----------|-----------|
| 児童(5,6 年生) | 99 | 99 | 100.0 | 100.0 |
| 保護者 | 274 | 300 | 91.3 | 90.9 |
| 地域 | 16 | 30 | 53.3 | 43.1 |

2. 全体概要:高い満足度と信頼関係

全体として、児童・保護者・地域の三者ともに学校に対して極めて肯定的な評価をしており、代田小学校が地域に根ざした、安定した学校運営を行っていることが確認できました。特に「学校行事」と「安全管理」において高い支持を得ています。

【強みの要点】

- ・学校行事の充実: 保護者の 95.9%が肯定。子どもの意欲向上に大きく寄与している。
- ・安全・安心な環境: 地域回答 93.8%、保護者回答 82.1%が肯定。信頼の基盤となっている。
- ・地域との紐帯: 地域の 100%が「できる範囲で協力したい」と回答しており、学校への協力体制が非常に強固である。

3. 対象別分析結果

(1) 児童アンケート:学習理解と意欲

高学年児童(5・6 年)は、概ね前向きに学校生活を送っている。

学習理解:「先生の注意を理解できる」が 90.9%と高く、教員とのコミュニケーションは良好。

規範意識: きまりを守る意識は 80%を超え、落ち着いた学習環境が推察される。

課題:「自分が苦手なことにも、前向きに挑戦しようとする」は 60.6%で、特に 6 年生が「苦手なことへの挑戦」に対して消極的になっている。

(2) 保護者アンケート:学校運営への満足度

学校の方針や情報発信に対して、高い満足度が示されている。

満足度の高い項目: 学校からの情報発信(84.3%)、課題解決力の育成(74.9%)。

課題:「学び舎(小中連携)」の認知度は 54.4%に留まり、26.6%が「わからない」と回答。

(3) 地域アンケート:地域から見た児童の姿

学校と地域の連携は非常に円滑である。

マナー面: 通学中のルール遵守(87.5%)は高いが、挨拶(68.8%)には改善の余地。

期待感: 学校公開や行事への案内、配慮については 100%の肯定回答を得ている。

4. 次年度への課題

(1) 「学び舎(小中連携)」の見える化と不安解消

保護者の約4分の1が「学び舎」の活動を把握できておらず、児童も進学情報の不足を感じている。

分析:中学校との交流や、中一ギャップを防ぐための取り組みが、家庭・児童に十分に伝わっていない可能性がある。

(2) 6年生の学習意欲・自己充足感の維持

5年生に比べ、6年生は「学ぶことが楽しい」「学校生活が楽しい」という肯定回答が約10ポイント下落している。

分析:最高学年としてのプレッシャーや、進路に対する不安が影響している可能性が高い。

(2) 「やらされる学び」から「選ぶ学び」へ

保護者アンケートでは「子どもが考え、話し合う授業(8割以上)」と高く評価されていますが、児童の「挑戦心」に火がついていないギャップがある。

分析:授業の形式は整っていますが、児童自身が「自分たちの学びだ」という当事者意識を持ちきれていない可能性がある。

5. 提言

(1) 小中連携(学び舎)の具体的発信

中学校の授業風景や部活動の紹介、合同行事の様子を動画や写真で積極的に配信し、保護者と児童の進学に対する心理的ハードルを下げる工夫を継続させたい。

(2) 高学年に対するメンタルケアと動機付け

特に6年生に対して、中学校進学を「不安」ではなく「希望」と捉えられるよう、卒業に向けたプロジェクトやキャリア教育をより充実させ、自己有用感を高める機会を設けること。

(3) 地域交流を通じた「社会性」の育成

地域住民から指摘のあった「挨拶」について、児童会と地域が連携した「あいさつ運動」の再活性化を提案する。地域に愛される児童の育成は、学校の安全性をさらに高めることにも繋がる。

6. まとめ

代田小学校は、児童・家庭・地域から厚い信頼を寄せられており、学校・家庭・地域の三者が手を取り合って子どもたちを見守る良好な土壌が築かれています。

今後は、この強固な信頼関係を土台としつつ、現在の課題である「小中連携の深化」や「高学年の自己充足感の向上」に向けた取り組みを加速させる必要があります。特に地域との連携においては、単なる行事への協力に留まらず、地域住民との日常的な交流や共同活動を通じて、児童が社会の一員としての自覚と自信を育める環境づくりを推進していくことを願います。

ICTの更なる活用や地域資源を活かした教育活動を充実させることで、児童・保護者・地域がより一体となり、変化の激しい時代を生き抜く力を共に育んでいくことを強く期待します。

令和7年度 世田谷区立代田小学校 学校関係者評価委員会

委員長:(保護者)

委員:(卒業生)

委員:(保護者)